# 第５回　庄原市地域水道ビジョン策定委員会議事録

日時　　：平成 25 年 12 月 11 日（水）　14:00～16:30
場所　　：庄原市役所５階　第１委員会室
配付資料：議事次第、委員会資料
出席者：委　員　松村貴江委員、藤原謙治委員、道下伸雄委員、落合祐一委員、
　　春田正治委員
　　神田茂生委員、原田浩幸委員、橋本 温委員、
　　永田　猛委員、西尾宣孝委員、高橋弘文委員
　　事務局　水道課　滝口博章課長、柿本英生庶務係長、樽 克文工務係長、
　　山崎幸則業務係長、岡本弘樹浄水係長、神垣浩平主事
　　東城水道室　塚原春雄室長、藤岡由夫東城水道係長
　　西城支所　片倉孝則産業建設室長、山本浩樹主任技師
　　口和支所　繁田浩二産業建設室長、石田泰清環境建設係長
　　高野支所　森末博雄産業建設室長、山下幹生主任
　　比和支所　井西一行産業建設室長、加川元暁主任主事
　　総領支所　矢上勝由産業建設室長、石原博行環境建設係長
　　事務局補佐
　　日水コン(株)　２名

## １．開会挨拶

市長より挨拶。

## ２．議事

**①策定委員の交代について**

事務局神垣より説明。

**②水道ビジョン目標実現に向けた施策について**

日水コンより説明。

**③意見･質疑等**

委員長　）安心、強靱、持続の３点の観点から説明があったが、そのことについて意見、質疑などをお願いしたい。

委員　）水道ビジョン目標実現に向けた施策の中の危機管理について、どのような危機を想定したものかがわからない。庄原市の各水道施設が壊れた場合、どのよう

に配水していくかという話はあったが、想定を超える大災害が起きたり、基となる施設が壊れた時にどうするのか。経費削減のため次々に施設を閉鎖していった場合、災害時の被害が拡大するのではないか。現在の水道ビジョンは、想定外の危機は起きないという考えで作成されているように思える。

事務局　）安定して水を供給することは水道の使命であり、そのために配水池を中心に耐震化を進めていきます。配水池を確保すれば、ある程度の期間は保つと考えています。
また、想定外の災害等が発生した場合には、庄原市だけで対応するのではなく、隣接の市町と協力しながら対応していくことになります。

委員　）水道ビジョン策定委員会のもち方についてであるが、会議資料等の発送時期や会議の開始時間、委員報酬を再考してほしい。

事務局　）会議の開始時間と委員報酬については事務局の中で協議いたします。次回の会議資料については早めに送付させていただきます。

委員　）非常に科学的でよく出来ている資料だと感心した。
ただ危機管理については、災害だけでなく、渇水の問題もあるため地下水や伏流水を含めて考えてもよかったのではないか。

事務局　）地下水や伏流水等は今回の水道ビジョンに含めていません。
確かに井戸水も庄原市の大きな課題となっていますが、ボーリング補助事業をやっているということでご理解をいただいているのが現状です。

委員　）危機管理についてであるが、集落排水や下水道が発達した現在、断水すると水が飲めないだけでなくトイレにもいけなくなる。
庄原中心部の災害想定は１０年前よりも重要な課題になっているため、土木専門家によるコンクリート調査や地質調査などを行う必要があるのではないか。

事務局　）管路については耐震化も進んでいますが、古い施設についてはまだ耐震診断も行っていない状況にあるため、今回の水道ビジョンの中で耐震化について強く盛り込んで行きたいと考えています。

委員　）地震だけを想定するのではなく、浄水場が使用できなくなくなった時のシミュレーションを幅広い視点で行うべきだ。

今までの水道ビジョンの説明は、平穏無事しか想定されていない。想定外を考慮した場合、もっと違う考え方が出てくるのではないか。

委員長　）確かに危機管理は重要なことだが、まずは日常の基盤について話しあってもらい、＋αのところで危機管理について考えていただきたい。

委員　）了解した。

委員　）布掛山浄水場が使えなくなった時は高野や口和の浄水場から水を送るとか、自衛隊が来てこういう措置をするということを定めておくのも一つの方法だと思う。

委員　）水道ビジョンとして色々な問題点の抽出を行い、それに対してこういう計画を立てるというところの説明はあったが、結局何をやるかという説明がなかった。非常時の対応計画についても、どのような施策を実行するという点を詳しく説明するべきだ。コンサルタントと一緒に様々なプランを作っても、住民の方に分かるように説明するという過程が抜けている。
実際、資料の中には、危機管理マニュアルの改訂というものが計画されている。危機管理マニュアルをこういう風に改訂すると水道ビジョンに載せるからここに出てきているのではないか。

委員　）危機管理の部分を具体的に説明すること。

事務局　）庄原市は既に危機管理マニュアルを作成しており、地震や洪水などの災害に対してどのような対応を行い、どういう体制で支援体制を組んでいくかというものが出来ています。今回の水道ビジョンでは、施設再編等を中心に検討してきたため、改定内容について細かな検討は行っていません。水道ビジョン実施の段階で改定を進めていきたいと考えています。

委員長　）危機管理が現在どのようになっているか、委員の皆さんに紹介した方がいいのではないか。

事務局　）もし災害が起きたらどういう体制で対応するということを、次回の会議で説明いたします。

委員　）結局何をやるのかという部分をもっと丁寧に説明していただきたい。せっかく検討したプランも策定委員会で説明しなければ、説明無しで水道ビジョンがで

きあがったということになる。
現状分析を行い、それに対してこういう計画を立てたというのが必要だ。１０年先や５０年先がわからないのはいい。しかし、これについては計画段階でこれ以上進まないとか、これについてはクリアーするとか、そういう段階が見える水道ビジョンにしないといけない。

事務局　）具体的な実施時期を明記した水道ビジョンを作るのは非常に難しいため、中期目標的な水道ビジョンで方向性を定めた上で、計画を実施する段階を具体的に検討していきます。施設の更新計画についても、いつごろ何を更新していくのかという実施計画を、水道ビジョン策定後に作る予定です。
しかしながら今回の水道ビジョンでも出来るかぎり整理させていただきます。

委員長　）他に何かないか。

委員　）県の立場から補足させてもらうが、庄原市だけでは対応できない災害が発生した場合、隣の三次市から水を供給することになっている。あるいはそれだけでは追いつかないという大規模な災害になれば、保健所を通じて県へ連絡を取り、広島市や呉市などといった大規模施設から応援を持ってくるという体制は出来ている。さらに広島県だけでも対応できない時には、全国組織で応援することになっており、できるだけ市民の皆様の日常生活に影響を与える期間を少なくする体制も構築している。そういう体制の中で、ここをこういう風にしようという意見を持ち寄れば、良いビジョンになるのではないか。

委員長　）では危機管理についてはまたまとめてもらうということで、財政収支計画に移らせていただく。

**③財政収支計画について**

日水コンより説明。

**④意見･質疑等**

委員長　）水道事業を安定的に継続していくためには、一般会計の繰入が必要であることと料金改定が必要であるという話があった。
生活に直結した問題であるが、質問や意見等をお願いしたい。

委員　）企業債の償還金があるが、これは合併する以前の簡易水道に対する償還金、例えば辺地債や過疎債で借りている分も含まれているのか。

事務局　）含まれています。

委員　）それが含まれているとなると、今までは一般会計で補填していた形になる。平成２８年度に簡易水道事業を統合する際には、そういった債務をすべて解消して統合するのが本来の筋ではないか。
それと制度としては、償還金は安い所から繰上償還していると思うが、そのあたりの考えはないのか。

事務局　）当然安い所から償還していきます。
また、国が認めた部分や企業債の１／２を一般会計から繰入金として引き続き入れてもらうよう要請していくべきではないかと考えています。

委員　）当然それはすべきだ。

事務局　）上水道事業と簡易水道事業の統合後は、大幅な減価償却や施設更新費用が発生します。しかしながら、水需要の増加は考えにくいため、水道料金を見直さなければならないと考えています。今回提示した資料では、水道料金の改定率が１．３倍になってしまいましたが、これは全てを水道料金に転化した場合の数字で、現実には出来るだけ改定率を抑えていく方針です。支出の削減については、適切な修繕を行いながら施設の長寿命化を図ることで建設改良費を削減していきます。
庄原市は平成 20 年に料金を改定しており、その時に簡易水道と上水道の単価を一律にしております。そのため簡易水道事業の赤字部分を一般会計から繰入金という形で補填してもらっており、水道料金の改定率を抑えるため、この部分については今後も強く要望していこうと考えています。

委員長　）他にないか。

委員　）水道事業は儲けてはいけないと思い込んでいないか。法律に触れない程度で、他の収入を考えてみたらどうか。赤字部分を水道料金に転化したり、経費削減を行うだけではなく、様々な企業努力に取り組んでもらいたい。

事務局　）水ビジネスという話もありますが、今のところ水道料金改定とコスト縮減が最

も有効であると考えています。他の収入については今後検討してまいります。

委員　）布掛山浄水場と簡易水道の連結について、メリットとデメリットのバランスを積極的に研究してもらいたい。建設費は必要だが水道管が連結すれば浄水費用をかなり削減できるはずだ。

事務局　）協議の結果、総領簡易水道と布掛山浄水場は連結できる可能性があるため、今回の水道ビジョンに載せました。今後研究していきます。

委員長　）他にないか。

事務局　）次回の策定委員会は２月頃の開催を予定していますが、その際に危機管理や計画といった部分で方向性のあるものを説明させていただきます。

委員長　）それではこれをもって第５回庄原市地域水道ビジョン策定委員会を終了する。